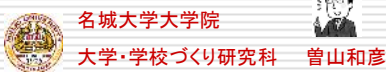



2015教育カウンセリング研修会(第10回コラボ研修会)

子ども同士の関係づくり ～コミュニケーション能力を育む指導を通して～

関係づくりの第一歩に据えたいのが「遊び」
ちょっとした「遊び」に
教育的にどのような意味があるのでしょうか。

 名城大学大学院
大学・学校づくり研究科 曾山和彦

2015.10.25

現代の子どもの姿とは 

人のかかわり不足の子どもたち

環境の変化

- 情報化、スピード化(3つのスクリーンの罪)
- 三間(時間、空間、仲間)の消失
- 核家族化 等

昔に比べ、人のかかわり不足の子どもたち

かかわり場面で時々「**オニの心**」(曾山)が...

自分勝手な振る舞い、わがままな行為...他 ²

人のかかわり不足が生む問題 1

□ 子どもたちの**自尊感情**が低下している

↓

Self-esteem
自己評価の感情(遠藤)。自分自身を価値あるものとする感覚であり、他者(身近な大人、友人等)の評価により育まれる

どうせ、ボクは...

自分自身のみならず、他者の受け入れも困難

いじめ、不登校、**気になる子**の問題に影響 ³

人のかかわり不足が生む問題 2

□ 子どもたちの**社会性**が弱まっている

↓

ソーシャルスキル
(人づきあいのコツ、技術)(河村)

2極化した行動(諸富)
相手を消す(いじめ)か、自分が消える(不登校)

通常学級における**気になる子**の問題がクローズアップ ⁴


現代の子どもの育む基本方策

自尊感情、ソーシャルスキルの不足により、時々、「オニの心」が顔を出すのではないかな

↓

“オニの心”を鎮めるのも
鎮め方を教えるのも大人の役目


1. 自分に「OK!」と言えるようにする
2. 対人関係のコツ(技)を教える・考えさせる

私たち教師の「腕の見せどころ!」  ⁵

コミュニケーションとは(多田)

□ 訳:伝達、連絡、通信

「意思や感情の**伝え合い**」&「人と人のかかわりづくり」
伝える力・関係をつくる力が「**コミュニケーション能力**」

コミュニケーション能力の基盤に「**聴く力**」があり。広く捉えれば、「**聴く力**」もコミュニケーション能力 

⁶

子どもの話を聴けない

～「何故? & どうすれば…」～

『児童心理』2015年12月号臨時増刊～特集:教師のための話す技術・聴く技術～にて提言



- 自分の心に余裕がないから、子どもに心を向けられない
- 子どものもつ力・可能性への信頼がないから、助言・指導が多くなる
- 子どものもつ関心の「土俵」に乗れないから、聴き流してしまう
- 感情転移に巻き込まれる(=逆転移)から、心穏やかに聴けない
- 自分に「OK」と言えないから、子ども自身にも子どもの話すことにも「OK」と言えず、素直に聴けない

「打ち出の小槌」は、振ることによって様々なものを出せるという伝説の小槌。子どもが、「先生、あのね」と言ってきたとき、「なるほど」等、首を縦に振る「頷き」は、子どもと教師の間に「信頼」「安心」を生み出す、現実の「打ち出の小槌」。



頷きという「小槌」を振ろう! (打ち出の小槌理論!?)

7

「話の聴き方」チェック

～傾聴;全ての理論、技法を超えた基礎・基本～

- 言葉の応答に限らず、身体全体、心も併せて聴けたか(言語及び非言語的コミュニケーションはどうだったか)
- 相手の話を取ってしまわなかったか
- ジョインング(波長合わせ)ができたか

話し上手は、聴き上手

8

傾聴の意義と基本技法

- クライアントの言葉を鏡になって返すことにより、クライアント自身の自己対話が始まる。
- アメリカの心理実験。カウンセラーの技量、技法に関係なく、クライアントが治るときにはカウンセリング場面で必ず「沈黙」がある。

基本5技法

受容、繰り返し、明確化、支持、質問

9

コミュニケーションに関する学生の声

～「聴く力」～

- 人の話を聴くときに、頷きやあいづちをうつことで印象がまったく違うことを知ることができた。
- 相手の話を聴くことに徹することの大切さを、繰り返し学んだ。
- 先生に学んだ、「あの人が頷きだけで出る勇気」という言葉をこれからもずっと忘れずにいようと思った。
- 講義を通して、日常生活でも友だちの悩みを聴くとき、「まずは話を聴く」ことができるようになり、自分の成長を感じた。

10

パブリックスピーチの原理 (圖分)

1. 聴き手と対話しているつもりで話すこと
2. 人の心を動かす(説得する)つもりで語ること
3. 自己開示の勇気を秘めて臨むこと
(他人の話では人は動かせない)
4. 聴き手の知っている言葉で語ること

コミュニケーションに関する学生の声

～「伝える力」～

- 人と話すのは得意ではないし、好きでもなかったけれど、毎回のスピーチのおかげで、だいぶできるようになった。
- 15回の講義を終えた後、人前で普通に緊張せず、話せる自分がいて驚いた。
- 初めは緊張で1分が長く感じたが、今では1分では足りないくらい話せるようになった。
- 他の授業で教職を受けていない学生と一緒にになると、自分が少しずつ、人前で話ができるようになったことを強く実感できて嬉しい。
- 毎回、授業の初めに行う1分間スピーチが意外と楽しみで、普段からネタ探しをするようになった。

12

コミュニケーションに関する学生の声 ～「関係づくりの力」～

- 先生の講義を受け、それまでの目指す教師像、授業像が大きく変わった。高校数学の先生の授業は厳しく、一方的で、でも正確性があり、論理的な解法を説明してくれるものだったし、ある意味でその授業に憧れていた。しかし、今では、先生のように周りとの関係をつくる授業に憧れている。
- 「関係づくりの第一歩は相手への関心」…この言葉を学んでから、相手に興味をもつこと、また、自分の心を開いていかねば相手の心には響かないと意識するようになった。先生の講義で学んだことは、確実に今後の大学生活で生きてくると確信した。

13

私が今、最も薦めたい！ 子ども同士の関係づくり実践

- 関係づくりの「花火」を打ち上げる

週一回程度の短時間グループアプローチ

- 「花火」の火を灯し続ける

各教科等の授業におけるペア・グループ活動

「聴く力」「伝える力」
「関係づくりの力」の育成

14

依佐美中の実践

～「よさっぴタイム」&「よさっぴトーク」～

私が4年間、共同研究
に携わった学校です



<よさっぴタイム>

SGEとSSTのねらいを統合した短時間グループアプローチ。各学級、毎週1回、月曜日の5時間目の前、10分間を活用して主に担任が実施。3つのルール:「お願いします&ありがとう」「うなずいて聴く」「指示をしっかり聴く」にのっとり、4人グループで行うことを基本。

<よさっぴトーク>

各教科等の授業中に取り入れる小グループでの話し合い活動。友だちが話す(刺激)→うなずいて聴く(反応)の結びつきを強める手段(「強化」という)として、また、構成された「よさっぴタイム」以外でも、自然な形でうなずくことができるようになる(類似する他の刺激に対しても反応が生ずるようになる＝一般化)というねらいをも含んだ活動。

15

「よさっぴタイム」に学ぶ よりよい「花火」の5条件

- 短時間の活動であること
- ルールと型が徹底された活動であること
- 繰り返し行える活動であること
- 友だちとのかかわりを楽しめる活動であること
- 教師自身も楽しめる活動であること

別資料「よさっぴタイム年間計画」に
記された演習のいくつかを体験！



体験！「質問ジャンケン」&「アドジャン」&「伝われ、私のありがとう」

16

子どもを「愛する」ことで 自尊感情を育む

～ある校長の後悔～

中学〇年生の担任だった時、一人の女生徒とのかかわりが難しかった。何度、話しかけても全く反応が返ってこないため、やがて声をかけるのをやめた。

30年後、同窓会でその女生徒と再会した際、「おまえはあの頃、俺と全く話をしなかったなあ」と語りかけたところ、彼女から……

子どもは大人から愛されれば愛されるほど
非行から遠ざかる(水谷)



褒める・勇気づける・認める

17

思春期の子どもの自尊感情育成 ～抑えどころ～


「自己評価の感情」である自尊感情育成の抑えどころ

1. 大人の声はなじまない
2. 特に大人からの「褒め言葉」はなじまない
3. 友だちの目・声が気になる

これらの点を抑え、「縦糸」(教師-子ども)、「横糸」
(子ども-子ども)を使った自尊感情育成に取り組む

18

「思春期」を理解する



- 疾風怒濤期; 身体や心の変化・成長に戸惑う
- 第二の誕生(心理的離乳); 親からの自立


<私の失敗>
思春期の子どもを担当していた頃、子どもに「挑発」され、「揺れている船」一緒に乗り込んで「沈没」

「揺れている船」に乗っている子どもが時に海に投げ出される。その子どもを助けに行く大人(親、教師)でありたい

「泳力・浮き輪」=知識・理論・技法が必要

19

「教える」or「考えさせる」ことでソーシャルスキルを育む



- 道徳性(大人に委任→自分で判断)、友人・母親関係(母への同調→友人への同調)が質的に変化する10歳前後(川島)
- 思春期

教えがなじむ時期に徹底して教えたいソーシャルスキル「オニの心」が強くなる前に教える「境」を超えると「オニの心」が強くなる。その前に!

10歳までは「教える」 10歳からは「考えさせる」

20

ソーシャルスキルのベース理論

学んでいない(未学習)なら学ばばいい
間違ってる覚えている(誤学習)なら学び直せばいい

↑

行動理論
人は性善説でも性悪説でもない
「白紙」
お望みとおりの人間に育ててみせる(ワトソン)

21

まずは「型」の習得から

- 「個性を捨てろ、型にはまれ！」(三田)

↑

アシスタント志望学生が、「個性、自分らしさ」を口にする。しかし、はじめは「型」の習得に専念させることが大切。型がある程度身についた後に自分の色がつき始める。

イチロー選手がはじめてから「イチロー打法」を身につけていたわけではない!

私の卓球も、合気道も・みな、同じ

22


例えば気持ちが伴わずとも「型」の習得には意味がある

- 「行動が感情をつくる」(W.ジェームズ)

↑

ジェームズは、「悲しい(感情)から泣く(行動)のではない。泣く(行動)から悲しい(感情)のだ」と述べた。口になじむほど「ありがとう」と言っていると、感謝の気持ちがやがて湧く

日に用いて知らず




23

学校が子どもを育む「一枚岩」になるために

依佐美中の教職員に対するアンケート結果まとめ

- 常に「チーム依佐美」を意識づけたこと
- 管理職、ミドルリーダーが自ら「してみせた」こと
- やると決めたことは全員で徹底したこと
- 目的達成の手段(よさびタイム)は「シンプル・おもしろい」ためになるものにしたこと
- 外部専門家を活用したこと

大規模校にもかかわらず、「一枚岩」を創り上げた先生方は「教育のプロ」!



24

子どもの自尊感情を育む前に、まず 私たち自身に「OK」と言う

OECDの「国際教員指導環境調査」(2013年、34カ国・地域)の結果、日本の中学校教員の勤務時間が最長であることが明らかになった。
さらに、日本の教員は自己評価も低い。

自分にOKと言えない人は、他者には尚更OKとは言えない。
自分を大切にできない人は、他者は尚更大切にできない。
だからこそ、自尊感情(自己評価の感情)を大切に！
頑張っている自分・仲間「OK」と言おう！

クーエの自己暗示:「毎日よくなっている！」

25

そして、最後に 今、私が「元気になる」言葉



- 「自分の一番の応援者は自分」
- 「あなたはあなた、私は私。だけど、もし私たちがお互いを必要としているなら、それは素晴らしいこと。しかし、もしそうじゃなければ、それはそれで仕方がないこと」(パールズのゲシュタルトの祈り)
- 「幸せだから笑うのではない。笑うから幸せ」(アランの幸福論)

本日の最終演習:「いいとこ四面鏡」

26

主な参考・引用文献

- 「21世紀に必要なコミュニケーションとは」、児童心理2005年7月号、多田孝志、金子書房
- 「心を伝える技術」、國分康孝、PHP
- 「幸福論」、アラン、岩波書店
- 「個性を捨てろ、型にはまれ」、三田紀房、大和書房
- 「発達を考えた児童理解・生徒指導」、川島一夫、福村出版
- 「教師の生きがい～使命感のある教師はなぜタフなのか」、児童心理2014年8月号、曾山和彦、金子書房

以下、HPに資料がたっぷり！



HP:「KAZU・和・POCKET」

27